に整えた本電はこれに大職員の具体的計画の示唆を引き出到り許に承認たのである。

四月の臨時総会議はこの職員の為に数時間に亘って論議されて職員の生活は苦しい意見が強硬に主張されたにも拘らず執行部案文は出来副委員長は決意として次って二千七百余名の大職員解雇を決行しし来たのだ。命令変更自身は今回の職員の一大反米運動を恐れ責任をつマ化しまる為に終に八月永長、副委長は辞職をもくろむ本はつたではないか。本電一年三千の従業員は今職員を為に極力の悪つまり動揺にある件今永電役は一時の声に惑わ(ま)ず、その上に堂々たる宣伝だと単者にも曲説し易いをして怠いて八つ当りを行はんとする動ひある。

あの大震災雲後修酷にも二千九百名の大職員更に昨五月二日千九百九十三名の大職員を電に職員は一切せめ立まで声的書ものたその心りくちこそ本電の如何なるものであるかを的確に示してあるではないか職員は世間必ずして職員まる今永が何を職員まるとなって職員しようで！

今永の今回の職員こそ陰険よりも職員であり、大職員の本質関係多更に今永の従来の試験であるのだ。

斯くて今回の示唆ある職員こそ今後一切の生活の護である同志諸を蹂躙し以って搾取をより増大し一切の小平を抑圧せし労の現実である。

最後ある今永は数千家の委議資金を用意し己に関連して来たるで！

本電二三の会員の金永を傷負法の為

金を職員は現実の問題必ずまたのだ。今この侵略踏みし様なならば一大闘決を決行せむるのだ。

サア全従業員の結束の力を以ては己に到来したのだ！

全従業員は今こそ立って新平たる行動に移れ！

一、職員は絶体反米だ！

一、全従業員は戦の準備をつけ！

一九二八、七、一七、

関東一円電気労働組合
電産産業
労働組合 金岡協議会